

はまな

No. 558 平成29年5月

静岡県水産技術研究所浜名湖分場

〒431-0214

静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 5005-3

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail: suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp



目次

| | |
|--|------|
| 平成29年度の浜名湖分場メンバー紹介 | ・・・1 |
| 平成28年度シラスウナギ採捕結果 | ・・・2 |
| 平成28年漁期のトラフグ漁を振り返る | ・・・2 |
| 平成28年の静岡県における養殖ウナギ・アユの生産及び 魚病発生状況について | ・・・3 |
| 垂下養殖アサリの試食会を行いました | ・・・5 |
| 浜名湖分場で青鰻会の勉強会が行われました | ・・・6 |
| 体験学習施設『ウォット』より | ・・・6 |

平成 29 年度の浜名湖分場メンバー紹介

平成 29 年度となり、浜名湖分場も新メンバーで業務をスタートしました。新メンバー自己紹介と、本年

<新メンバー自己紹介>

上席研究員 小泉 康二

4月の人事異動により、浜名湖分場に着任しました小泉です。浜名湖分場には平成15年度から19年度までの5年間在籍し、今回が2度目の勤務となります。前はトラフグの栽培漁業を主な業務とし、市場調査をはじめ漁業関係者、漁協職員の方々には大変お世話になりました。また、アサリの害敵「ツメタガイ」の大量発生が問題となり、漁業者の方々とは卵塊の駆除等の活動を始めました。今回はそのアサリ担当となりましたが、近年のアサリ資源を巡る状況は漁業だけでなく、潮干狩りという観光面でも大変に厳しいものとなっ

度の業務分担を以下に掲載します。1年間、よろしくお願いたします。

ています。まだまだ力不足ではありますが、それらの課題を少しでも解決できるよう関係者の皆様の御指導、御協力をいただきながら、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



主査 岩田 安弘

4月の人事異動により、浜名湖分場に着任しました岩田です。総務事務を担当しております。漁業分野は初めての業務で、不安も大きいですが、職員の皆様に助けてもらいながら、楽しくやっております。また、関係者の皆様の御指導及び御協力をいただきながら、取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願申し上げます。

ウオットは、子供が大好きで、時々、遊びに来ています。浜名湖で週末に、お目にかかることもあるかもしれませんが、そのときはよろしくお願いたします。



<転出者>

上原 陽平 浜名湖分場主任研究員 → 水産技術研究所資源海洋科主任研究員

平成 29 年度 業務担当表

| 職 | 氏名 | 主な担当業務 |
|---------------|------|--------------------------------------|
| 分場長 | 羽田好孝 | 分場業務の統括 |
| 主査 | 岩田安弘 | 予算、庶務 |
| 研究科長 | 吉田 彰 | 試験研究の企画調整 クルマエビ・トラフグ資源増大研究、湖内漁業研究 |
| 上席研究員 | 小泉康二 | アサリ漁業研究、湖内漁業研究、湖内環境研究 |
| 上席研究員 | 田中寿臣 | ウナギ人工種苗生産研究、ウナギ生態研究 |
| 上席研究員 | 飯田益生 | ウナギ生態研究 |
| 主査 (普及指導員) | 今中園実 | 普及広報統括 普及指導 (浅海漁業、環境保全、魚病対応) |
| 主任 (普及指導員) | 水越麻仁 | 普及指導 (淡水養殖、魚病対応) |
| 非常勤 | 伊村律次 | 調査船の運航管理 |
| 非常勤 | 佐原山雄 | 試験研究補助、場内管理 |

平成 28 年度シラスウナギ採捕結果

水越 麻仁

平成 28 年度シラスウナギ採捕の許可期間は、平成 28 年 12 月から平成 29 年 4 月末までとなっておりますが、県内養鰻業者の池入れ量を満たす目途がなかったため、平成 29 年 3 月末で採捕は終了しました。採捕量は 1,638kg で、3 年連続で前年を上回りました。採捕量は増加傾向にあり、今後もこの傾向が維持されることを期待したいです。

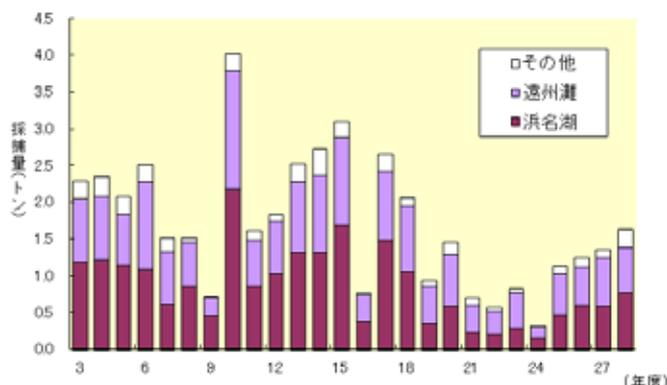


図 1 静岡県のシラスウナギ採捕量の推移

表 1 平成 28 年度の月別シラスウナギ採捕結果

単位：g

| | | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 計 |
|-------|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 浜名湖 | 平成28年度 | 273,494 | 174,451 | 204,369 | 120,667 | 0 | 772,981 |
| | 平成27年度 | 50,600 | 80,869 | 260,431 | 151,575 | 31,833 | 575,308 |
| | 平成18～27年度平均 | 36,483 | 83,105 | 130,377 | 145,805 | 53,806 | 449,576 |
| 遠州灘 | 平成28年度 | 158,680 | 148,142 | 183,651 | 116,123 | 0 | 606,596 |
| | 平成27年度 | 130,358 | 70,174 | 328,730 | 118,715 | 18,305 | 666,282 |
| | 平成18～27年度平均 | 66,370 | 77,124 | 139,162 | 143,105 | 86,482 | 512,244 |
| その他地域 | 平成28年度 | 26,955 | 80,645 | 107,291 | 43,041 | 0 | 257,932 |
| | 平成27年度 | 16,207 | 19,722 | 72,886 | 12,291 | 1,265 | 122,371 |
| | 平成18～27年度平均 | 6,591 | 16,995 | 24,401 | 29,608 | 18,896 | 96,491 |
| 県全域 | 平成28年度 | 459,129 | 403,238 | 495,311 | 279,831 | 0 | 1,637,509 |
| | 平成27年度 | 197,165 | 170,765 | 662,047 | 282,581 | 51,403 | 1,363,961 |
| | 平成18～27年度平均 | 109,456 | 177,785 | 294,205 | 318,655 | 159,555 | 1,059,657 |

平成 28 年漁期のトラフグ漁を振り返る

吉田 彰

平成 28 年漁期（平成 28 年 10 月～29 年 2 月）のトラフグはえ縄漁が終わりました。漁獲量、全長組成、単価等を基に、今漁期のトラフグ漁を簡単に振り返ってみます。

図 1 に、本県におけるトラフグ漁獲量と平均単価の推移を示しました。平成 28 年漁期の漁獲量は 17.7 トンで、4 年ぶりに 20 トンを超えた前年漁期の 72% となりました。よって、当分場が漁期前の 9 月に出した「前年比 86%」との予測は（本誌 556 号「平成 28 年度トラフグ漁期始まる」参照）、概ね適中したと考えています。

本県のトラフグ漁況は、漁獲の主体となる 1 歳魚の出現が多い漁期に豊漁となることが知られています。図 2（次ページ）に、漁期初めの 10 月に舞阪市場（浜松市：本県のトラフグ水揚の中心）で測定したトラフグの全長組成を前 2 年と対比して示しました。

図 2 のとおり、平成 28 年 10 月における漁獲の主体は 2 歳魚（平成 26 年級群）以上の大型魚で、例年主体となる 1 歳魚（平成 27 年級群）は少なく、これが前年に比べ漁況が低調であった原因と考えられました。

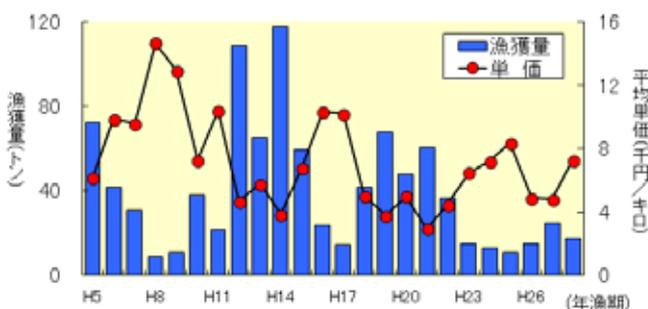


図 1 静岡県のトラフグ漁獲量と平均単価の推移

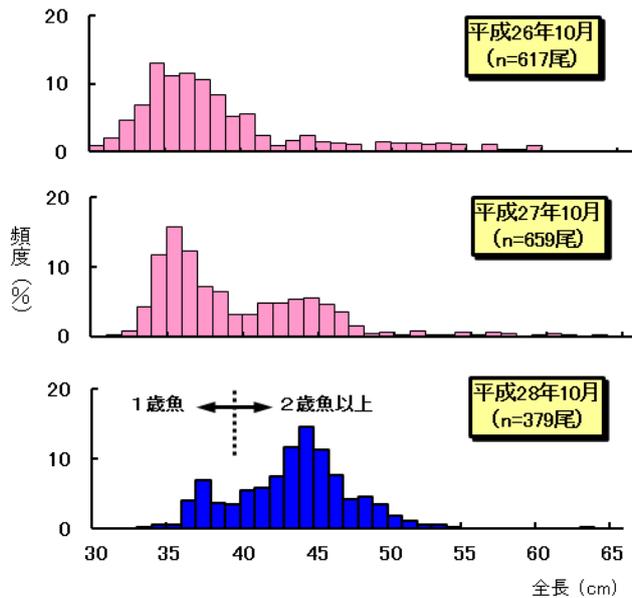


図2 舞阪市場における10月のトラフグ全長組成

一方、28年漁期の平均単価は7,258円/kgで、27年漁期の4,809円/kg、26年漁期の4,860円/kgを上回りました(図1)。近年では堅調であった単価が、漁獲量の減少を補うことで、28年漁期の漁獲金額は、27年漁期の約119百万円を超え約128百万円となりました。

図3に、平成5年から28年漁期におけるトラフグ漁獲量と平均単価との関係を示しました。図3と図2

とを見比べると、28年漁期の堅調な単価には、漁獲量の減少だけでなく大型魚の割合が高かったことが関係していると考えられます。県内で漁獲されるトラフグは伊勢・三河湾系群に属するとされ、この資源評価では、低位にある資源状態を回復するため、1歳魚など未成魚の獲り控えをさらに徹底することが必要とされています¹⁾、この獲り控えは、漁獲物中の大型魚の割合を相対的に高め、魚価向上にも資する可能性が高いと思われます。引き続き、関係機関とも連携して、漁業者にも協力を呼びかけ、トラフグ漁が持続的に営まれていくための取り組みを支援していきます。

<参考文献>

1) 鈴木重則ら(2017):平成28年度トラフグ伊勢・三河湾の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価 第3分冊, 1898~1927.

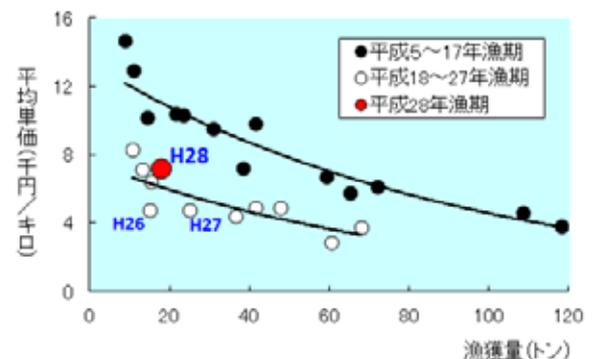


図3 静岡県におけるトラフグ漁獲量と平均単価との関係

平成28年の静岡県における養殖ウナギ・アユの生産及び

魚病発生状況について

水越 麻仁

平成28年の養殖ウナギ・アユの生産状況と魚病発生状況を把握するため、県内養殖業者を対象としたアンケート調査を実施しましたので、その結果についてお知らせします。

アンケートの回収率は、ウナギ養殖業者では76%(55軒に配布し42軒から回答)、アユ養殖業者では71%(7軒に配布し5軒から回答)でした。

1 養殖の状況

平成19年から28年の生産状況の推移を表1(次ページ)に示しました。農林水産省の統計値のある項目は統計値を記載し、統計値のない項目についてはアンケートの集計値から推定した値を記載しました。

(1) 経営体数

平成28年の養殖経営体数は、ウナギ55軒、アユ7

軒となりました。

(2) 生産量及び生産金額

①ウナギ

平成28年の生産量は2,180トン(前年比119%)となりました。平成25年及び26年はシラスウナギの不漁から低い生産量で推移しましたが、今年は平成19年以降で最も高い値となりました。これは、近年シラスウナギの採捕量が増加傾向にあるためと考えられます。また、生産金額についても81億3千6百万円となり、平成19年以降で最も高い値でした。これは、生産単価が高止まりしたまま、生産量が増加したためと考えられます。

②アユ

平成28年の生産量は148トン(前年比90%)と

なりました。養殖業者数の減少もあり、平成19年に300トン程度あった生産量は、近年減少傾向にあります。生産量の減少に伴い、生産金額も減少傾向にあり、

平成28年は2億5百万円となりました。しかし、生産単価は上昇傾向にあり、近年では最も高い1,385円/kgとなりました。

表1 ウナギ及びアユ養殖の生産状況

| 年 | ウナギ | | | | アユ | | | |
|----|------|-----------|-------------|--------------|------|-----------|-------------|--------------|
| | 経営体数 | 生産量 トン | 生産金額 百万円 | 生産単価 円/kg | 経営体数 | 生産量 トン | 生産金額 百万円 | 生産単価 円/kg |
| 19 | 50 | (1,704) | (2,890) | 1,696 | 10 | (350) | (425) | 1,214 |
| 20 | 45 | (1,632) | 3,821 | 2,341 | 14 | (299) | 364 | 1,217 |
| 21 | 45 | (1,833) | 3,822 | 2,085 | 14 | (307) | 370 | 1,205 |
| 22 | 45 | (1,799) | 3,873 | 2,153 | 14 | (253) | 308 | 1,217 |
| 23 | 44 | (1,865) | 4,983 | 2,672 | 8 | (216) | 268 | 1,241 |
| 24 | 42 | (1,629) | 5,675 | 3,484 | 6 | (237) | 278 | 1,173 |
| 25 | 42 | (1,396) | 5,694 | 4,079 | 6 | (191) | 234 | 1,225 |
| 26 | 51 | (1,490) | 5,526 | 3,709 | 7 | (167) | 221 | 1,321 |
| 27 | 51 | (1,834) | 6,429 | 3,582 | 7 | (165) | 216 | 1,286 |
| 28 | 55 | 2,180 | 8,136 | 3,733 | 7 | 148 | 205 | 1,385 |

カッコ内の値は漁業・養殖業生産統計（農林水産省）による。他はアンケートの集計値から推定。

2 魚病の発生状況

平成19年から28年の魚病発生状況の推移を表2に、直近3年の疾病別被害状況を表3及び表4に示しました。これらは、アンケートの集計値をもとに推定した値です。

1) 魚病発生状況

①ウナギ

平成28年の被害量と、生産量に対する被害割合は、

前年から減少し、それぞれ73トン、3.4%となりました。被害量は増減を繰り返しているものの、近年は平成23年以前と比べて低い値で推移する傾向にあります。

②アユ

平成28年の被害量と、生産量に対する被害割合は、前年から増加し、それぞれ12トン、8.1%となりました。被害量は平成22年に減少しましたが、以降は増加傾向にあります。

表2 養殖ウナギ及びアユの魚病発生状況

| 年 | ウナギ | | | | アユ | | | |
|----|-------|----------------|-------|-----------------|------|----------------|------|-----------------|
| | 被害量 | 被害割合 (対生産量) | 被害金額 | 被害割合 (対生産金額) | 被害量 | 被害割合 (対生産量) | 被害金額 | 被害割合 (対生産金額) |
| | トン | % | 百万円 | % | トン | % | 百万円 | % |
| 19 | 108.6 | 6.7 | 201.5 | 5.3 | 10.3 | 3.4 | 18.8 | 5.2 |
| 20 | 107.5 | 5.9 | 197.7 | 5.2 | 10.0 | 3.3 | 15.7 | 4.2 |
| 21 | 168.1 | 9.3 | 275.5 | 7.1 | 6.4 | 2.5 | 8.6 | 2.8 |
| 22 | 151.1 | 8.1 | 289.6 | 5.8 | 11.0 | 5.1 | 16.5 | 6.2 |
| 23 | 121.8 | 7.5 | 223.6 | 3.9 | 7.5 | 3.2 | 8.2 | 2.9 |
| 24 | 78.8 | 5.6 | 236.0 | 4.1 | 2.2 | 1.2 | 2.6 | 1.1 |
| 25 | 47.8 | 3.2 | 183.2 | 3.3 | 5.0 | 3.0 | 7.9 | 3.6 |
| 26 | 75.7 | 4.2 | 206.0 | 3.2 | 8.7 | 5.2 | 11.1 | 5.1 |
| 27 | 100.4 | 5.6 | 368.5 | 5.7 | 9.9 | 5.9 | 11.2 | 5.2 |
| 28 | 73.2 | 3.4 | 186.9 | 2.3 | 11.9 | 8.1 | 16.4 | 8.0 |

*1: 被害量 / 生産量 × 100

*2: 被害金額 / 生産金額 × 100

表3 養殖ウナギの疾病別被害量 (kg)

| 病名 | H26 | H27 | H28 |
|--------------|--------|---------|--------|
| ウイルス性血管内皮壊死症 | 12,876 | 23,140 | 22,096 |
| 点状出血症 | 342 | 810 | 1,627 |
| 板状出血症 | 11,937 | 15,683 | 7,417 |
| カラムナリス病 | 489 | 3,148 | 2,218 |
| 滑走細菌性鰓病 | 626 | 200 | 867 |
| パラコ口病 | 2,599 | 9,700 | 6,594 |
| 寄生虫症 | 2,579 | 958 | 713 |
| 骨曲がり | 41,371 | 42,685 | 27,019 |
| その他 | 555 | 2,168 | 1,454 |
| 不明 | 2,349 | 1,945 | 3,225 |
| 合計 | 75,723 | 100,437 | 73,230 |

表4 養殖アユの疾病別被害量 (kg)

| 病名 | H26 | H27 | H28 |
|---------|-------|-------|--------|
| ビブリオ病 | 21 | 304 | 280 |
| 冷水病 | 2,046 | 200 | 4,354 |
| 細菌性鰓病 | 0 | 0 | 700 |
| 真菌性肉芽腫症 | 0 | 0 | 0 |
| チョウチン病 | 0 | 50 | 0 |
| グルゲア症 | 0 | 0 | 0 |
| 「ボケ」 | 2,093 | 2,700 | 5,740 |
| その他 | 0 | 0 | 840 |
| 不明 | 4,513 | 6,670 | 0 |
| 合計 | 8,673 | 9,924 | 11,914 |

(2) 疾病別被害状況

①ウナギ

平成 28 年は骨曲がり（原因不明）が最も多く、27.0 トンでした。ついで、ウイルス性血管内皮壊死症が 22.1 トン、ウイルスが原因と考えられている「板状」による被害が 7.4 トン、パラコロ病（細菌感染症）が 6.6 トンとなりました。これらの被害の大きな疾病による被害量は前年よりも減少し、総被害量も減少しました。

②アユ

平成 28 年はボケ病（主にウイルス性の異型細胞性鰓病）が最も多く 5.7 トンでした。ついで、冷水病等の被害が 4.3 トン、その他の疾病が 0.8 トンでした。

3 医薬品等の使用状況

①ウナギ

平成 28 年の養殖ウナギにおける抗菌剤の使用量、使用金額はそれぞれ 530kg、341 万 3 千円（前年：390kg、353 万 7 千円）でした。抗菌剤使用量が増加した理由として、前年と比較して生産量が増加したことが影響している可能性が考えられます。

②アユ

平成 28 年の養殖アユにおける抗菌剤使用量、使用金額はそれぞれ 87kg、109 万 7 千円（前年：30kg、39 万 9 千円）でした。使用量が増加した理由は、冷水病の発生が増加したことなどによると考えられます。

垂下養殖アサリの試食会を行ないました

今中 園実

アサリをコンテナ等に収容し、餌の量などの条件がよい場所を選んで海中に垂下すると、短期間で身質（身入り）が向上することが知られています。この方法は「アサリの垂下養殖」として三重県、長崎県など各地で行われており、身入りを良くしたアサリは 1,000～2,500 円/kg という高値で取引されています（直売価格：浜名湖産アサリの卸し単価は約 400 円/kg）。浜名湖分場では、昨年度まで浜名湖の環境に適した垂下養殖技術の研究を行っており、より良い浜名湖産アサリを出荷して漁業収入の向上が期待できる技術として、今後は漁業者への普及を進めていきたいと考えています。

浜名湖で垂下養殖したアサリ（以下「垂下アサリ」）を高値で売るには、その価値を多くの人に認めてもらうことが必要です。そこで、多くの食材を扱っている料理人の方々を対象とし、垂下アサリに価値を見出してもらえるか、意見をいただくための試食会を開催しました。開催に当たっては、県西部地区の料理人組織「三ツ星会」に協力をいただき、同会主催の食事会のメニューに取り入れていただきました。

試食会は 4 月 18 日に、浜松市西区の中華料理店「ムーラン」で開催され、料理人、食品卸関係者等、18 名の方が参加しました。「ムーラン」の内田祥三シェフにより、食事会のメニュー全 10 品中の 1 品、「浜名湖あざりと青菜と板春雨の炒め物」として垂下アサリが提供されました。また、内田シェフのご好意により、通常天然アサリでも同じ料理を作ってください、垂下アサリと比べながらの試食もできました。試食に用いた垂下アサリは、事前に殻を剥いたとき、天然アサリに比べて見た目でも身入りがとても良かった「自信作」

でしたが、多くの参加者から「大きい！」「見栄えがする」などの言葉をいただき、「身入りが良くなる」という垂下アサリの良い点がとても評価されたと感じました。

当日はアンケートも実施し、垂下アサリの見栄え、食感等への感想、また「天然アサリの値段に対して、どのくらいなら垂下アサリを高く買いたいか」という質問をしてみました。見栄えや食感については「大きい」「身がやわらかい」という回答が多く、浜名湖の垂下アサリは食べる人に満足してもらえらると思われました。しかし、「天然アサリに対してどの程度の値段なら買いたいか」という質問には、「天然アサリと同じくらいの値段なら買う」という回答が多く、良いものを高く売っていくことの難しさも実感させられました。

今回の試食会では、浜名湖の垂下アサリが高い評価を得ることができました。今回のアサリは浜名湖分場が試験的に養成した「試作品」ですが、浜名湖の垂下アサリが多くの人に楽しんでもらえるものになるよう、今後は技術の普及や販売方法の検討をしていきます。

最後になりましたが、試食会にご協力いただいた内田シェフ、および「三ツ星会」の皆様、この場を借りてお礼を申し上げます。



垂下アサリ（左）と通常のアサリを使った料理

浜名湖分場で青鰻会の勉強会が行われました

飯田 益生

浜名湖養魚漁協に所属する若手養鰻業者を中心に構成される「青鰻会」の勉強会が4月4日に当场研修室で行われました。天然ウナギの生態や資源の保全について理解を深めたいとの青鰻会の要望を受けて、浜名湖に生息する天然ウナギの生態に関する当場の調査結果を紹介するとともに、浜名湖の漁業におけるウナギの位置付けやウナギ資源保全の現状について情報提供し、今後の取組みに向けた議論を行いました。また、より多くの業者の皆さんと情報共有をしたいとの要望があり、5月12日に2回目の勉強会が行われました。参加者からは、資源保全に前向きな意見が多く寄せられ、ウナギ資源に大きく依存している業界として、その保全にどのように関わっていくのかを見つめ直す良い機会となったのではないかと感じました。

現在、県西部地域では、浜名湖で漁獲された親ウナ

ギ（産卵に向かう銀ウナギ）を買い取って放流する活動が行われ、ウナギに関わる関係者が広く参画しています。今回の勉強会が、こうした活動への養鰻業者の関わりを深めるとともに、関係者間の連携がより強固となり、地域の重要な資源であるウナギを大切に、そして有効に利用する動きに繋がることを期待します。



体験学習施設「ウオット」より

★ヒョウモンダコの標本展示を開始しました★

浜名湖体験学習施設ウオットでは、浜名湖内で昨年11月に捕獲されたヒョウモンダコを、本年4月まで飼育展示しました。猛毒をもつ危険生物として皆様を紹介していましたが、残念ながら4月上旬に死んでしまいました。ヒョウモンダコの寿命は春までの約1年といわれ、当館のヒョウモンダコも、寿命をまっとうしたと思われまふ。浜名湖内で捕獲されるのは大変珍しいため、標本処理をして、当館2階の開放実験室で展示しています。ウオットにお越しの際はご覧下さい。

(ウオット職員 大竹純也)



生体展示時のヒョウモンダコ（上）と標本

★★イベント案内★★

○水中TV トーキング

大水槽にダイバーが潜り、魚に餌をあげる様子・クイズなどを楽しめるイベントです。

毎週日曜・祝日 13:45～（約20分間）

○写生大会

館内にて生き物の絵を自由に描いていただけます。優秀作品は表彰させていただきます。

6月10日（土）～6月11日（日）

※作品の展示期間は7月15日（土）～8月31日（木）

○ザリガニ釣り大会

ザリガニを釣ってみましょう。

うまく釣れた方には、プレゼントもあります！

7月17日（月） 10:00～12:00

○七夕企画：あなたの夢かなえます！

ウオットでやってみたい夢を短冊に書くと、その夢がかなうかもしれません。

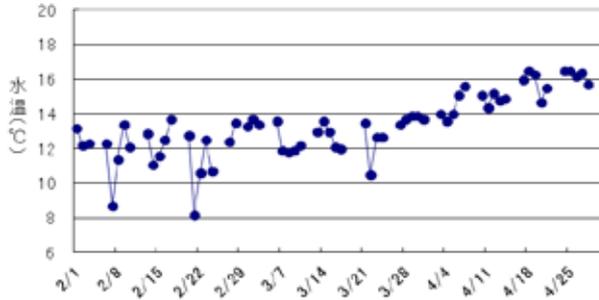
イベント実施：8月6日（日）

※短冊の募集期間は6月3日（土）～7月17日（金）

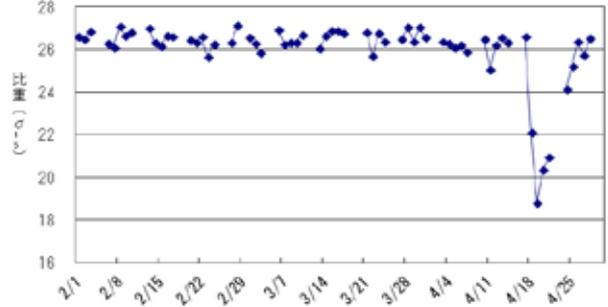
*本コーナーに関するお申し込み・お問い合わせは、ウオット（TEL：053-592-2880）にお願いします。

弁天島の水温・比重（平成 29 年 2 月～ 4 月）

水温の変動



比重の変動



水温・比重の平均値

| 水温(°C) | 2月 | | | | 3月 | | | | 4月 | | | |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 |
| 2017年 | 12.0 | 12.4 | 11.3 | 11.9 | 12.3 | 12.7 | 13.1 | 12.7 | 14.6 | 15.4 | 16.1 | 15.4 |
| 平年 (過去10年平均) | 12.3 | 12.1 | 13.2 | 12.5 | 13.6 | 13.3 | 14.1 | 13.7 | 14.8 | 16.0 | 17.3 | 16.0 |

| 比重(ρ15) | 2月 | | | | 3月 | | | | 4月 | | | |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 月平均 |
| 2017年 | 26.6 | 26.5 | 26.4 | 26.5 | 26.5 | 26.7 | 26.6 | 26.6 | 26.2 | 24.0 | 24.8 | 25.0 |
| 平年 (過去10年平均) | 26.2 | 26.1 | 26.1 | 26.1 | 25.8 | 25.9 | 25.9 | 25.9 | 25.6 | 25.2 | 25.0 | 25.3 |

分 場 日 誌（平成 29 年 2 月～ 4 月）

29 年 2 月

- 2～3日 アユの疾病研究部会（滋賀）
- 3日 県漁業士会総会（浜松）
- 6日 浜名漁協海苔供養祭（舞阪）
- 14日 定点観測（浜名湖）
- 17日 遺伝子実験安全検討会（焼津）
- 15日 6次産業化ネットワーク会議（静岡）
- 18～19日 しずおか食の都の祭典（静岡）
- 22日 アサリ研究会（北海道）
- 28日 浜名漁協つば・かご漁組合総会（舞阪）

29 年 3 月

- 1日 放流種苗調整会議（静岡）
- 7日 定点観測（浜名湖）
- 県ふぐ漁組合役員会（静岡）

- 10日 養殖衛生管理会議（東京）
- 14日 浜名湖地区袋網実行会総会（舞阪）
- 16日 浜名湖地区水産物活性化作業部会（舞阪）
- 21日 県魚病対策委員会（静岡）
- 28～29日 日本水産学会春季大会（東京）

29 年 4 月

- 8日 浜名漁協水産祭（舞阪）
- 11日 鷺津地区水産祭
- 18日 定点観測（浜名湖）
- 21日 西部地域行政連絡会（磐田）
- 遠州漁協福田ふぐ組合総会（福田）
- 26日 浜名湖貝毒監視連絡会（当場）
- 27日 気田川環境保全協議会（春野）
- 28日 水産事業概要説明会（静岡）

表紙の写真： 天然採苗で得たアサリの放流作業（平成 29 年 5 月 20 日）